

第1回地域連携・多職種協働周術期管理パス普及事業 公開セミナー

日 時：2015年9月26日（土）12：30～16：00

場 所：岡山大学創立五十周年記念館

テ ー マ：多職種協働周術期管理のチームビルディング

講演 1	「周術期管理チーム」 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 麻酔・蘇生学分野 教授 森松博史先生
講演 2	「薬は周術期管理の重要ポイント：抗凝固薬・抗血小板薬と糖尿病治療薬を中心に」 岡山大学病院薬剤部 外来薬剤業務管理室 室長 猪田宏美先生
シンポジウム	「周術期管理センター開設・運営のポイント」 看護師の立場から 周術期管理センター看護師長 足羽孝子先生 理学療法士の立場から 総合リハビリテーション部 萩山明和先生 歯科医師の立場から 医療支援歯科治療部 山中玲子先生 歯科衛生士の立場から 周術期管理センター歯科衛生士 花岡愛弓先生 管理栄養士の立場から 周術期管理センター管理栄養士 園井みか先生 薬剤師の立場から 外来薬剤業務管理室 猪田宏美先生

第1回 岡山県委託事業 地域連携・多職種協働周術期管理パス普及 公開セミナーを開催しました。今回のテーマは、多職種協働周術期管理のチームビルディングです。

始めに、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科麻酔・蘇生学分野教授森松博史先生より、「周術期管理チーム」と題する講演が行われました。現在、世界的な潮流として、麻酔科医師は術中の麻酔にとどまらず、術前術後を含めた周術期管理を行うことが求められています。例えばアメリカ麻酔科学会では、2015年6月、91%の麻酔科医師が、診療科名を現行の「Anesthesiology（麻酔科）」から「Anesthesiology and Perioperative Medicine（麻酔および周術期管理）」に変更してもよいと答えています。岡山大学病院では、麻酔科医師、外科医師をリーダーとし、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、歯科衛生士、歯科技工士、臨床工学士など多職種から為る周術期管理センター（PERIO）を、世界に先駆けて2009年に立ち上げています。設立の背景や運営方法について、森松先生より説明されました。PERIOは、術後合併症や入院日数を減少させ、患者が安心して、安全な周術期を過ごすことを目標にしています。さらに地域に目を向けると、高齢者人口は急激な増加傾向にあり、2025年には1/3が高齢者になります。今後ますます医療の効率化が求められることを見据え、これからは病院機能の分化を行い、地域が一丸となって周術期管理を行うことを目指すと述べられました。

講演2では、岡山大学病院薬剤部外来薬剤業務管理室室長猪田宏美先生により、「薬は周術期管理の重要ポイント：抗凝固薬・抗血小板薬と糖尿病治療薬を中心に」と題する講演が行われました。外来から退院までの薬剤師の役割、周術期に必要な薬として、抗凝固薬・抗血小板薬と糖尿病治療薬等の特徴について症例を交えて説明されました。さらに、薬に関する情報を一元化すること、ジェネリック医薬品、配合薬に注意すること、術前中止期間の適正化、最新の医薬品情報を提供することを多職種連携に生かしていきたいと述べられました。

シンポジウムでは、「周術期管理センターの開設と運営のポイント」と題して、看護師、理学療法士、歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士、薬剤師の立場から、それぞれの役割と多職種との連携について述べられました。講演終了後の質疑応答も活発に行われ、良い機会となりました。

98名の方が参加され、そのうち34名の方が県外から来られ、北海道地区からもご来場頂きました。

なおこのセミナーには、岡山県病院協会、岡山県歯科医師会、岡山県看護協会、岡山県病院薬剤師会、岡山県栄養士会、岡山県理学療法士会、岡山県歯科衛生士会、岡山県歯科技工士会よりご後援を頂き開催致しました。

